（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０２４　年度（令和　６　年度）学校評価自己評価表

幸千　　中学校区	校番　14	福山市立　千田小　学校
	最終更新日	2024年（令和6年）9月19日

Ⅰ　福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状
○子どもに力をつけるために、先生方が新しい手法やツールを模索しながら、多様な取り組みをされている。 ●保護者・地域住民への積極的な情報発信を行い、連携をさらに深めて欲しい。	●不登校出現率が高い。 ●体力テストにおいて、県の平均値以上の項目が少ない。 ○地域の行事やボランティア活動に主体的に参加する児童・生徒が増えている。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）	思考力・創造力　表現力　思いやり　能動的市民性
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	○主体的に学び　よく考える児童生徒　○自分なりに表現し伝え合う児童生徒 ○思いやりのある児童生徒　○人や社会に貢献しようとする児童生徒
中学校区として統一した取組等	○住み続けられる町づくりを考えることを目的にした学習を核に各教科と関連づけたカリキュラムを実施することで、めざす子ども像に迫る取組を行う。 ○生徒の実態を細やかに分析し、生徒のつまずきの要因に対応した指導と支援を行う。

Ⅲ　自　校

ミッション
変化の激しい社会の中で、未知な状況に自ら挑み続ける児童・教師

学校教育目標
挑む　～自分で○○　みんなで○○　挑み続ける千田小～

現　状（昨年度までの成果○と課題●）
＜児童＞ ○「挑む」という学校教育目標を様々な場面で活用することで児童の意識が高まり、主体的に挑もうとする児童が増えた。 ○児童の関わりを意識した縦割り活動や学校行事の充実等により、お互いを認め合う温かい声かけや行動が増えた。 ○委員会活動や体育的行事の充実により、体力向上に対する意識が高まった。 ●自分のやりたいことに留まらず、目的意識や相手意識をもった「挑む」を目指したい。 ●挑んだ結果を児童自身がふり返り、次につなげていけるようにしていく必要がある。 ＜授業＞ ○習得した知識・技能が活用できる資質・能力の向上に向けて、教員の教材研究の質を高めるために、Google クラスルームなどを活用して積極的に交流できた。 ○チームによる研究を推進することで、教科ごとに自由な発想のもとで授業研究が行うことができた。また、「学ぶ喜び」についての取組により、児童の学習に対する意欲が高まった。 ●基礎的な知識や技能の定着とその活用を意識した学びづくりを行う必要があり、そのための教員のファシリテート力を高める必要がある。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）		思考力・創造力	表現力	思いやり	能動的市民性
めざす子ども像	自分で	問題に対して、見通しをもって、様々な方法で調べたり考えたりして、解決することができる。	自分の思いや考えを、言葉や図などを用いて適切に表すことができる。	よい挨拶や適切な言葉遣いを意識して生活することができる。	周りに気を配り、マナーやルールの意義を考えて行動に移せる。
	みんなで	考えの共通点や相違点などを見つけたり、多様な考えを整理・分析したりして、新たな考えを見出すことができる。	相手に共感したり、表現方法を時・相手・場面に応じて選択したりして、適切に伝えたりすることができる。	他の人のことを考えた行動や相手を大切にする言葉遣い、言葉かけができ、協力して生活することができる。	学級や学校、地域をよりよくするために、協力して活動することができる。
	挑み続ける	日常的に行動する 最後まで粘り強く取り組む 「もっともっとすごい」を目指して修正する			

研究	テーマ	挑む　～みんなで「学ぶ喜び」～
	内容等	教科チームに分かれてその教科における、みんなで「学ぶ喜び」について研究し、交流することで学校としての、「学ぶ喜び」のある授業の姿を追求する。
めざす授業の姿		児童が学びを「楽しい」「おもしろい」と感じることに留まらず、「わかった」「できた」喜びや学んだことを「生かせる」「深まる」喜び、他の教科での学びが「つながる」「広がる」喜びなどを味わうことのできる授業を目指す。 そのために、子ども主体の学びを支えるファシリテーターとしての教師の在り方も探究する。

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　千田小　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日） □指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	最終評価（２月末） □指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
3	個性を発揮し、自ら挑み続ける教職員	★	継続	・自らの強みや個性を生かした目標に向けて実践する	・学年会・分掌部会などでそれぞれの目標を共有し、互いにアドバイスし合うことで自己更新へつなげる（My Challenge として位置づける）	(1) 業績評価の目標のうち、My Challengeとして設定した項目の達成度評価（自己評価）において4以上の教職員を80%以上 (2) 教職員アンケート「目標や夢に対して当事者意識をもって挑戦ができている」の肯定的な回答を80%以上	・個々の取組だけになってしまい、共有することができていない。 ・互いの挑戦を応援する雰囲気作りができている。 (1) 4以上 26.1% 3以上 81.2% (2) 100%（強い肯定的評価 56.3%）	3	3	・入力シートを作成し、毎月ふりかえることができるようにする。 ・学年会で、目標を共有する場を必ず設ける。	・学年会で目標を共有することで、教員同士で協力をし合ったり、自分の目標を話すことで、更に意識する教職員が増えた。 ・MyChallenge の自己評価を過小評価する傾向があるため、設定した目標や評価指標が妥当であるか検討する必要がある。 (1) 4以上 52.01% 3以上 88.0% (2) 96.0%（強い肯定的評価 64.0%）	3	4	4	・My challenge の目標を設定する時に、個人で考えたものを教員同士で共有していたが、次年度は、目標を設定する時に、教員同士で自分の強みややってみたいことを話し合って考えるなどしていく。
3	習得した知識・技能を活用できる資質能力の向上	★	見直し	・教職員が児童の実態や学びの成果を捉えて評価し、指導の改善につなげる	・教材研究の質を高める（教材との関わり方や学びのゴールを児童の姿でイメージする）	(3) 単元テストの到達度の平均が8割を超える児童の割合を70%以上 (4) 児童アンケート「学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」の肯定的回答を80%以上	・単元テストの結果を分析する研修を学期に２回行い、学年での取組を全体で交流した。また、授業改善の方策についても考えた。 ・学年主任会や研修などを通じて、教職員の振り返りに対する意識が高まった。 (3) 64.6% (4) 83.8%	3	3	・学力向上の重点項目を全学年で決めて、指導方法の交流や誤答分析を行うなど、焦点化した取組を行っていく。 ・児童の学びの自覚化に有効な振り返りについての実践を共有し、目指す児童の姿について明らかにしていく。	・国語科の漢字と算数科の文章問題の２つを学力向上の重点項目として設定し、各学年での取組の交流や研究チームとの連携を行った結果、数値が向上した。 ・振り返りだけでなく、教材研究の質を高めるために、Google クラスルームを通じた交流を行うことで教職員の意識が高まった。 (3) 71.8% (4) 87.3%	4	4	4	・本年度の学力テストの結果などを分析し、４月から焦点化した取組を行っていく。 ・教材研究の質を高める取組について、アンケートや全体研修などから考え、より効果的なものにしていく。
1	全ての人が相手意識をもった行動ができる学校		新規	・教職員・児童が相手を大切にする行動、言葉を使えるようになる	・掃除や挨拶の意義を知る機会をもち、進んで取り組むことができるようにする	(5) 掃除に対する肯定的意識をもつ児童を増やし、「時間いっぱい掃除ができている」と回答する児童の割合を80%以上 (6) 児童・教職員アンケート「進んであいさつを	・担当の委員会があいさつや掃除について、全校集会で周知するなどの取組を継続して行ったため、意識が高まった。 (5) 95.1%	3	4	・これまでに行った取組を継続して行うとともに、よりよい掃除やあいさつについて周知し、意識を高めていく。 ・あいさつや掃除について、意識だけ	・縦割り掃除で異なる学年で掃除の仕方を教え合ったり、掃除の仕方の動画を流したりしたことで、掃除への意識が高まった。 ・週１回のあいさつ	4	4	4	・今できていることから、更なるレベルアップを目指して、相手の目を見てあいさつをしたり、すみずみまで掃除をしたりできるよう、よりよい方法を全校で共有

						している」の肯定的回答を７０%以上	⑹児　童 93.1% 教職員 94.1%			でなく、児童の実態から取組を考え、実践できるようにする。	運動により、進んであいさつをする児童が増えた。 ⑸93.7% ⑹児　童 94.1% 教職員 96.0%				していく。 ・あいさつ運動、縦割り掃除を継続して行っていく。
2	自らの健康維持・促進に努める		継続	・自分の健康（運動・食・安全）について考え、体作りができるようになる児童を増やす	・体験的に憧れや理想となる姿を学び、運動への意欲を高めたり、運動する時間や場の設定をしたりする ・地域と連携し、体験的な活動を通して、食の大切さに気付くことができるようにする ・怪我をする児童を減らす取り組みをする	⑺運動に親しんでいる児童の割合を80%以上 ⑻嫌いなものがあっても頑張って給食を食べている児童の割合を８０%以上 ⑼以前よりも怪我をしないように気をつけて生活することができた児童の割合を８０%以上	・職員研修による授業改善や職員の声かけ等の取組を通して、運動に親しむ児童が増えた。 ・給食時間に給食についての情報や、食事と健康の関係を知らせる機会を作った。 ・苦手なものでも自分なりに頑張って食べることが健康につながるという声かけを行った。 ・ミニ保健において、学校内外で安全に過ごせるように指導した。 ・危険な怪我が発生した場合には、速やかに職員全体に共有し、学級での指導を行った。 ⑺88.6% ⑻93.3% ⑼89.5%	4	4	・校区の中学校との連携や、外部講師を招くなどして、運動への意欲を高める。 ・週１回休憩時間に外遊びデーを設定し、外に出て運動する機会を確保する。 ・給食時間の指導の更なる充実を図るなど、個々の食への意欲を高める取組を行う。 ・給食を含む食に関して、児童からの疑問や感想を受け答えできる仕組みを作る。 ・安全して生活することに対する意識が持続できるように、児童への啓発を行う。	・外遊びデーや体育委員会の取組、体育の授業改善、大縄跳び大会などを通して、運動を好きと感じたり、体育の時間以外に体を動かしたりする児童が増えた。 ・日々の給食指導が継続して行われたことで、給食や食に関する知識が増えたり、興味を持ったりする児童が増えた。 ・今までの取組を継続して行うことで怪我が減った。 ⑺90.2% ⑻90.5% ⑼89.3%	5	4	5	・週１回の外遊びデーや大縄跳び大会の開催など、運動に親しむことができるような取組を来年度も継続して行っていく。 ・体育の授業力アップの取組も行っていきたい。 ・引き続き、毎日の給食を生きた教材とした指導を続ける。 ・怪我の未然防止ができるような働きかけを考え、１年を通して継続的に行っていく。
1	信頼される学校		新規	・学校の取組を積極的に外部に公開し、学校の取組への理解・協力を促す	・学校の取組を分かりやすく伝えるために、通信やメール配信、ホームページなどを活用する	⑽保護者アンケート「学校の様子や取組がよくわかる」の肯定的回答を80%以上 ⑾ホームページの訪問人数を月間の延2000人以上	・ホームページのギャラリーのページの積極的な更新や、写真を多く取り入れた学校だよりの作成をした。 ・ホームページの更新情報をメールで配信した。 ⑽79.8% ⑾約 7000 人	3	3	・保護者アンケートの結果を分析したり、情報公開の大切さを共有したりしながら、学年・学級での情報発信を中心に取組を進めていく。	・保護者アンケートの結果を学年ごとにまとめて、傾向などを共有したり、定期的に声かけを行ったりしたことで、情報発信に対する意識が高まった。 ⑽83.8% ⑾約 10000 人	4	4	4	・全教職員が、学校の取組を積極的に発信していくことの大切さについて意識できるような取組を、今後も続けていきたい。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。